



## 2020年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年11月13日

上場会社名 アライドテレシスホールディングス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 6835 URL <https://www.at-global.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 大嶋 章禎  
 問合せ先責任者 (役職名) IR室長 (氏名) 増田 晴美 (TEL) 03-5437-6007  
 四半期報告書提出予定日 2020年11月16日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2020年12月期第3四半期の連結業績(2020年1月1日~2020年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第3四半期	20,166	△4.7	△430	—	△589	—	△665	—
2019年12月期第3四半期	21,156	4.2	△605	—	△990	—	△1,088	—

(注) 包括利益 2020年12月期第3四半期 △855百万円(—%) 2019年12月期第3四半期 △1,105百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第3四半期	△6.07	—
2019年12月期第3四半期	△9.92	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年12月期第3四半期	24,879	3,579	14.0
2019年12月期	24,668	4,434	17.6

(参考) 自己資本 2020年12月期第3四半期 3,486百万円 2019年12月期 4,341百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年12月期	—	0.00	—	—	—
2020年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2020年12月期の連結業績予想(2020年1月1日~2020年12月31日)

当期の業績予想につきましては、現時点において未定としています。

(詳細は、[添付資料] P. 3 「1. (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。)

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2020年12月期3Q	109,671,545株	2019年12月期	109,671,545株
2020年12月期3Q	371株	2019年12月期	314株
2020年12月期3Q	109,671,199株	2019年12月期3Q	109,665,361株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当期の業績予想につきましては、現時点において未定としています。

(詳細は、[添付資料] P. 3 「1. (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。)

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

2020年12月期第3四半期連結累計期間（2020年1月1日～9月30日）における当社グループは、デジタル化社会を支える重要なインフラを提供する企業として、需要が高まるサイバーセキュリティ対策やITインフラ管理・運用対策といった高付加価値製品・サービスの拡販を強化し、オンラインでの各種プロモーション活動を積極的に展開してまいりました。また、製品の供給面では、海外に自社工場を複数保有する強みを活かすことで、新型コロナウイルス感染症拡大による生産活動やサプライチェーンへの影響を最小限に抑えることができました。さらに、開発面では、次世代に向けた最新技術・製品及び将来を見据えたサービスやソリューションの製品化を強化しており、当四半期（7月～9月）では、すでに米国で販売し、米国空軍研究所などからも評価されているバーチャルの試験・評価環境「Tokalab(トカラボ)」の日本での発売に向けて準備を進めてまいりました。

当第3四半期連結累計期間の業績は、営業・サービス体制を強化している日本での売上が大幅に増加した一方、ロックダウンの影響で海外での売上が減少した結果、売上高は201億66百万円（前年同期比4.7%減）となりました。損益面は、前会計年度に実施した海外拠点の統廃合により人件費及び研究開発費が減少したこと、感染拡大による事業活動の制限からイベントなどの広告宣伝費が抑制されたこと、さらに移動制限による旅費交通費が減少したことなどから、営業損失は4億30百万円（前年同期は6億5百万円の損失）となりました。また、営業外損益として海外子会社で受取保険金を計上したことに加えて、前年同期に比べ為替差損が減少したことから、経常損失は5億89百万円（前年同期は9億90百万円の損失）となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は6億65百万円（前年同期は10億88百万円の損失）となりました。

当第3四半期連結累計期間における当社グループの所在地域別セグメントの売上高の概要は、次のとおりです。

#### 〔日本〕

日本では、高まるデジタル化需要を背景にした顧客の多様なニーズに応えるソリューションビジネスを推進するため、引き続き営業・サービス体制を強化しております。また、ウィズコロナ時代に沿った広告・販促活動として、Webを活用したセミナーの拡充や各種オンラインイベントへの出展により注力製品・サービスの訴求に努めてまいりました。そのような中、重点顧客市場と位置付けている文教市場において、文部科学省の「GIGAスクール構想」の投資需要が急速に拡大し、ネットワークインフラ整備などの大型案件の獲得が好調に推移しました。この結果、日本の売上高は前年同期比9.8%増の139億76百万円となりました。

#### 〔米州〕

米州では、在日米軍基地における居住者用の定額制インターネットサービスの売上が増加しました。一方で、ロックダウンによる経済活動の停滞により販売代理店向けの出荷が減少したほか、大統領選挙を控える中での先行き不透明感から公共投資の抑制が見られました。この結果、米州の売上高は前年同期比23.6%減の29億86百万円となりました。

#### 〔EMEA（ヨーロッパ、中東及びアフリカ）〕

EMEAでは、ロックダウンにより事業活動が制限された前四半期（4月～6月）に比べて受注が徐々に改善しつつあるものの、景気悪化の影響により同業他社との価格競争の激化が見られました。国別では、ドイツでは医療機関を中心に好調に推移したものの、フランス、イギリス、ベネルクス3国で売上が大幅に減少しました。この結果、EMEA全体での売上高は前年同期比31.6%減の21億43百万円となりました。

#### 〔アジア・オセアニア〕

アジア・オセアニアでは、オンラインでの営業・販促活動を強化しつつ、不採算地域の人員削減や配置転換を実施し、経営の効率化を図っております。一方、先行きの不透明感を理由とした顧客の投資判断の先送りが数多く見られ、受注は振るいませんでした。国別では、インド、タイでこの傾向が顕著に表れているほか、前四半期に堅調であったオーストラリアの売上は、当四半期では大きく減少しました。この結果、アジア・オセアニア全体での売上高は前年同期比23.6%減の10億59百万円となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は248億79百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億10百万円増加となりました。これは主に、現金及び預金が5億18百万円減少した一方で、商品及び製品が8億33百万円増加したことによるものです。

### (負債)

負債合計は212億99百万円となり、前連結会計年度末に比べ10億65百万円増加となりました。これは主に、長期借入金が9億75百万円減少した一方で、リース債務が14億14百万円、支払手形及び買掛金が4億63百万円増加したことによるものです。

### (純資産)

純資産につきましては、35億79百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億55百万円減少となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により利益剰余金が6億65百万円減少したこと及び、為替換算調整勘定が1億95百万円減少したことによるものです。

これらの結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ3.6ポイント低下となる14.0%となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、現在22か国に子会社を保有し事業を展開しています。そのため、新型コロナウイルスの感染拡大による世界的な経済活動の制限及びそれに伴う景気悪化、米国大統領選挙が与える世界経済への影響等により、当社グループを取り巻く事業環境が短期的に大きく変動するリスクがあります。特に海外子会社では中央・地方政府の大型公共事業を手掛けることが多く、政治・経済動向が当社の事業活動に与える影響は大きくなります。このような理由から、当期の業績予想につきましては、現時点(2020年11月13日)で合理的な算定が困難であるため、未定としています。業績予想の開示が可能となった時点で速やかに開示する予定です。

また、利益配分に関する基本方針として、当社は、安定的かつ継続的な株主への利益還元を経営課題として考えるとともに、社会のニーズや技術の進歩・動向等を見据えた研究開発を成長のための必要不可欠な投資と位置づけた上で、経営基盤の強化と財務体質の健全性の保持に努めております。その上で業績に応じた株主への利益還元を実施することを基本方針としています。しかしながら、繰越利益剰余金が欠損の状況にあり、財務基盤の安定を最優先とすることから配当を見送る予定です。当社は、早期の業績の回復と復配に向けて全力で取り組んでまいります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,995,294	2,476,435
受取手形及び売掛金	5,745,834	5,608,418
商品及び製品	3,937,924	4,771,549
仕掛品	350,231	391,602
原材料及び貯蔵品	688,351	911,832
その他	1,331,112	1,416,468
貸倒引当金	△92,517	△90,619
流動資産合計	14,956,231	15,485,687
固定資産		
有形固定資産		
土地	2,672,428	2,641,737
その他(純額)	3,295,731	2,904,292
有形固定資産合計	5,968,159	5,546,030
無形固定資産		
その他	294,092	257,926
無形固定資産合計	294,092	257,926
投資その他の資産		
その他	3,459,991	3,598,861
貸倒引当金	△10,396	△9,496
投資その他の資産合計	3,449,594	3,589,364
固定資産合計	9,711,847	9,393,320
資産合計	24,668,078	24,879,008
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,558,449	3,022,125
短期借入金	2,129,174	2,128,566
1年内返済予定の長期借入金	1,539,274	1,545,899
未払法人税等	234,043	193,249
賞与引当金	105,087	123,871
前受収益	4,267,716	4,621,413
その他	2,779,139	2,636,003
流動負債合計	13,612,887	14,271,129
固定負債		
長期借入金	3,960,928	2,985,517
退職給付に係る負債	651,652	624,971
リース債務	1,385,225	2,799,862
その他	623,078	618,286
固定負債合計	6,620,885	7,028,637
負債合計	20,233,772	21,299,766

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,014,121	10,014,121
資本剰余金	194,407	194,407
利益剰余金	△6,002,177	△6,667,866
自己株式	△26	△31
株主資本合計	4,206,324	3,540,631
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	157,924	△37,752
退職給付に係る調整累計額	△22,871	△16,565
その他の包括利益累計額合計	135,052	△54,318
新株予約権	92,928	92,928
純資産合計	4,434,305	3,579,241
負債純資産合計	24,668,078	24,879,008

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年9月30日)
売上高	21,156,900	20,166,597
売上原価	8,349,822	7,798,135
売上総利益	12,807,077	12,368,461
販売費及び一般管理費	13,413,007	12,798,965
営業損失(△)	△605,929	△430,503
営業外収益		
受取利息	842	394
受取保険金	—	27,294
その他	16,471	22,980
営業外収益合計	17,313	50,669
営業外費用		
支払利息	144,513	186,151
為替差損	243,067	17,780
その他	13,832	5,839
営業外費用合計	401,414	209,771
経常損失(△)	△990,030	△589,605
特別利益		
新株予約権戻入益	98,032	—
特別利益合計	98,032	—
特別損失		
事業再編損	217,364	—
特別損失合計	217,364	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,109,362	△589,605
法人税、住民税及び事業税	105,818	210,272
法人税等調整額	△127,127	△134,188
法人税等合計	△21,308	76,083
四半期純損失(△)	△1,088,054	△665,688
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,088,054	△665,688



四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
四半期純損失(△)	△1,088,054	△665,688
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△23,587	△195,677
退職給付に係る調整額	6,180	6,306
その他の包括利益合計	△17,406	△189,371
四半期包括利益	△1,105,461	△855,059
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,105,461	△855,059
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)

配当金支払額

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

配当金支払額

該当事項はありません。

(追加情報)

I 表示方法の変更

当社の連結子会社であるアライドテレシス株式会社において、第1四半期連結会計期間より、経営環境の変動に対応し推進しているワンストップ型の包括的なサービスの昨今及び今後の拡販に伴い、利益及び工数管理の向上を図るため、人件費等の原価計算を精緻化いたしました。

これに伴い、売上高と発生費用の関連を見直すことで経営成績をより適正に表示するべく、従来、販売費及び一般管理費として計上していた人件費等の一部を売上原価へと表示区分を変更することといたしました。

この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書の組替えを行っております。この結果、前第3四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において、販売費及び一般管理費に表示していた437,133千円を売上原価に組替えており、同額、売上総利益が減少しております。

II 会計上の見積り

新型コロナウイルス感染症について、今後の収束時期を見通すことは困難な状況であります。このような状況の中、Webを活用したセミナー等の販促活動を拡充し、デジタル化の需要に応じて、優れたソリューションやサービスの拡販を図ることで、当連結会計年度末にかけて徐々に業績が回復すると仮定して会計上の見積りを行っております。新型コロナウイルスの感染拡大による影響は、当社グループの見積りの要素を大きく変更する状況には至っていないと考えております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	日本	米州	EMEA(注) 1	アジア・ オセアニア	計		
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	12,725,110	3,911,078	3,134,015	1,386,695	21,156,900	—	21,156,900
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	576,813	34,551	58,158	5,596,754	6,266,277	△6,266,277	—
計	13,301,924	3,945,630	3,192,174	6,983,449	27,423,178	△6,266,277	21,156,900
セグメント利益又は損失(△)	△1,023,515	259,326	△226,458	214,316	△776,331	170,401	△605,929

(注) 1. ヨーロッパ、中東及びアフリカ。

2. セグメント利益又は損失の調整額には、セグメント間取引消去115,369千円及びセグメント間取引に係るたな卸資産の調整額等55,031千円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	日本	米州	EMEA(注) 1	アジア・ オセアニア	計		
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	13,976,881	2,986,390	2,143,819	1,059,505	20,166,597	—	20,166,597
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	416,085	19,551	40,869	5,676,454	6,152,961	△6,152,961	—
計	14,392,967	3,005,942	2,184,688	6,735,959	26,319,558	△6,152,961	20,166,597
セグメント利益又は損失(△)	△366,431	△15,829	△408,001	274,286	△515,975	85,472	△430,503

(注) 1. ヨーロッパ、中東及びアフリカ。

2. セグメント利益又は損失の調整額には、セグメント間取引消去143,034千円及びセグメント間取引に係るたな卸資産の調整額等△57,561千円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。